

平成30年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（みつば 幼稚園）

教育目標	
幼稚期にふさわしい生活を通して、豊かな心やたくましく生きる力の基礎を培う	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none">・体と心をしっかりと動かすことに着目しながら、幼稚期にふさわしい活動の展開ができ、豊かな心情や考える力、人とかかわる力を培うことができた。・より豊かな心を育みたくましさを培うため、クラスにとどまらず異年齢でのかかわりや、地域とのかかわりなど多様なかかわりの場を計画的に構成し、安心して自己を発揮し、自己肯定感を高め、生きる力の基礎を培っていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・広い園庭や広場の活用により、遊びの中に幼児に必要な運動量があり、体力がついてきている。・3歳児から5歳児の発達や、各学年の育ちがよくわかる。・保護者からの信頼を得ながら、今までの取り組みがより一層充実するように、一つ一つの活動を丁寧に見直しながら深化していってほしい。・みつば幼稚園の教育を、保護者だけでなく広く発信してほしい。(園児獲得)・子どもたちに豊かな体験や経験ができるよう、地域とつながり支援していきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年10月15日	学校運営協議会みつばの森
最終評価	平成31年3月12日	学校運営協議会みつばの森

(1) 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実

具体的な取組	
<p>○幼児が心と体を動かし、意欲的に遊ぶことができるよう教師がモデルとなり共に遊び、幼児理解を深め、援助を行い、遊びに必要な環境を再構成する。</p> <ul style="list-style-type: none">・意欲的に夢中になって遊べる安心安全な環境づくり・子どもと一緒に遊ぶ中で、必要な援助と環境の再構成を行う	
<p>○幼児の姿を振り返り、一人一人の興味・関心や発達に応じた保育・援助・環境を見直す</p> <ul style="list-style-type: none">・計画的な週案の作成と日々の保育の振り返り(PDCAサイクルの確立)	
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none">・幼児の遊びの姿の変容をとらえる・週案と年間指導計画の振り返り・事例検討 <p>①アンケート(項目)・子どもは自ら遊びを見つけて遊ぶことを楽しんでいる。②園は自ら心を動かし、生き生きと活動できるような環境を整えている。③子どもは幼稚園で豊かな経験ができ、様々な気づきや発見をしている。</p>

中間評価

自己評価	各種指標結果
	○年間指導計画に基づき、週案を計画・実行し振り返り、環境の再構成に努めた。また、教師も共に遊びの中で、より幼児理解ができ、遊びの変容をとらえられた。
	○アンケート（A:とてもそう思う B:そう思う C:どちらかというとそう思う D:そう思わない） ①②③ともAB評価が9割を占めた。とくに②③ではAが90%以上の高評価であった。
学校関係者評価	分析（成果と課題） 教師が共に遊びことでより幼児の姿がとらえられ、また、環境構成を考えることでより安全で楽しい活動が展開でき、幼児の意欲が高まり、主体的な活動につながった。事例検討を通して保育に必要な援助や環境構成について深められた。アンケート結果もAB評価が概ね9割を超え、取組が評価されている。しかし、環境構成の準備や再構成が遅れることもあり、長期的展望に立った計画が今後の課題だ。
	分析を踏まえた取組の改善 年間指導計画をさらに意識した週案を作成し、PCDAサイクルを活性化させる。 幼児理解をさらに深める事例検討の充実　遊びがより広がり、豊かになるような異年齢の交流
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・事例検討や幼児理解とともに、年間指導計画をより意識した週案の作成と振り返り。
最終評価	学校関係者による意見・支援策 ・園の取組（日々の遊びの広がりや充実）が幼児の育ちにつながっていることが運動会での子どもの姿に表れていた。 ・心と体を動かす取り組みに呼応して夕涼み会で学生サークルによる「よさこいソーラン」や「よっちはれ」を紹介。幼児も共に踊り、みんなで楽しむ場となった。

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果
	週案による保育の振り返りやPCDAが活性化し、年間指導計画を意識した教育活動を展開できた。 遊びや活動が学年だけにとどまらず、他学年の活動とつながった。 事例検討により、幼児の育ちを見とり内面理解を深めることができた。
	○アンケート（A:とてもそう思う B:そう思う C:どちらかというとそう思う D:そう思わない） ①②③ともAB評価総数は前期と同じで9割を超えていたが、B評価からA評価の割合が増えた。
重点目標の達成状況、次年度の課題	分析（成果と課題） ・年間計画を意識した週案の立案と実行、振り返りにより遊びと行事が連動し、充実した活動となつた。　・事例検討を行うことで幼児理解や次の援助につながり、PCDAサイクルの活性化となつた。また、教師が共に遊びことで子どもの大きな援助になることが改めてわかった。・アンケートから、子どもが園で様々な気づきや発見をもとに主体的に活動していると、保護者が子どもの一年の成長を感じてられることが表れた。
	分析を踏まえた取組の改善 ・より遊びや活動が充実し、豊かな経験となるための、園行事を生活や遊びの流れとのつながりを意識した週案の立案と、教材研究。各クラスの活動にとどまらず異年齢との関わりをひろげる環境構成の見直し。・事例検討などによる、信頼関係の見直しと幼児理解の継続。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 ・日々の保育の見直しと、次の保育への見通しが主体的な活動につながつた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・同学年での遊びやかかわりに加え、異年齢での遊びやかかわりが主体性や意欲につながり、より心豊かな経験となった。今後も、学年のねらいを大事にしながら、異年齢とのかかわりによる幅広い、豊かな活動を展開していきたい。 ・事例検討などで、初めてのことへの躊躇やできることへの不安感が改めて読み取れた。幼児や家庭との信頼関係を土台とし、安心感をもち、のびのびと活動する幼児の育成を目指す。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園が子どもの姿をよく捉え、その育ちと課題をみとり、次の手立てを考えていることが、保育の充実につながっているとよくわかった。育てたい観点（資質・能力）が明確になってきている。保護者アンケートもB評価からA評価への割合が増えており、保護者からの理解や信頼が高まっているとわかった。今後も、保育の質を高める・充実させる方向に注力してほしい。

(2) 小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む **幼小接続の視点**

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ねらいを意識した年間交流計画の作成 ○近隣の小学校等への保育公開・授業参観・合同研修の実施 ○えほん室と「親子で絵本！」の活用
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の計画と実施後の事例検討 ・保育公開や研修の回数と「幼児期に育みたい資質・能力」と学びに向かう力の育ちの検討。 ・えほん室のクラスでの利用と親子での利用実績　・「親子で絵本！」の活用具合 <p>○アンケート（項目）④家庭では月刊絵本や園からの貸出絵本を楽しんでいる。⑤えほん室を親子で利用し絵本にふれたり絵本を借りたりしている。⑥保幼小中連携の取組は子どもの心の育ちにつながっている。</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との交流でのねらいを意識した年間計画を作成。事前事後の打ち合わせによる意見交流。 ・小学校授業参観への参加　烏丸上京プロジェクト（KKP）による夏季合同研修会への参加　園外への保育公開はまだできていない。 ・週1回絵本貸出日の取組継続　「親子で絵本！」100冊超えが各学年複数あり。 <p>○アンケート（A:とてもそう思う　B:そう思う　C:どちらかというとそう思う　D:そう思わない）</p> <table border="1"> <tr> <td>④A 51%</td><td>B 36%</td><td>⑤A 74%</td><td>B 23%</td><td>⑥A 69%</td><td>B 26%</td><td>AB評価が9割前後</td></tr> </table>	④A 51%	B 36%	⑤A 74%	B 23%	⑥A 69%	B 26%	AB評価が9割前後
④A 51%	B 36%	⑤A 74%	B 23%	⑥A 69%	B 26%	AB評価が9割前後		

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを意識することで小学校との交流の意義を互いに考えられ、幼児の育ちにつながった ・KKP連携のもと研修を行い各校種の教育について学べた。しかし、幼稚園の保育公開がまだできていない。今後予定し地域の連携施設に公開し連携充実を図る。 ・えほん室の親子利用を楽しみにしている家庭も多い。しかし、利用者に偏りもみられる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携における互いの教育への理解と交流活動の充実　保育公開と「学びに向かう力」「幼児期に育みたい資質・能力」の検討 ・前半に続き、クラスでのえほん室活用絵本整備におけるボランティアとの協力と情報交換

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・保育公開と他校種との意見交換と連携 週案とアプローチカリキュラムの検討
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・小中との交流や連携は該当学年が中心となる傾向がある、他学年への発信も工夫が必要。 ・中学校体育大会で体操する幼児の姿は初めての場にも対応できる心の育ちが見えた。 ・教師の心地よい読み聞かせの時間が幼児の絵本が大好きという気持ちにつながっている。 ・絵本ボランティア活動でえほん室で読み聞かせ活動や絵本整備を行っている。その中で幼児と触れ合い互いに名前がわかり、呼びあう関係ができている。幼児の人とかかわる力の育ちとともに、ボランティア活動の喜びを感じる。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果 ・小学校学習発表会見学により1年生の学習に興味を持ち、園での遊びへの動機付けとなった。 1年生との交流活動のねらいや持ち方を話し合い、1年生の生活を身近に感じる取り組みとなり進学への期待がふくらんだ。 ・週案から幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を読み取り円滑な接続に取り組めた。 ・公開保育への参加呼びかけが遅く、保育からの話し合いが不十分だった。 ・絵本ボランティア活動が絵本室での安心感を醸し出し、読み聞かせ活動につながった。 ○アンケート (④月刊絵本などを楽しんでいる⑤えほん室活用⑥保幼小中連携) ④A 55% B 29% C 13% D 3% ⑤A 76% B 22% C 2% D 0% ⑥A 76% B 20% C 4% D 0%
自己評価	分析（成果と課題） ・アンケート結果より、前期に比べ保護者は地域の保幼小中連携への理解が広がっている。5歳児だけでなく3・4歳児保護者にも理解が進んだと考える。 ・交流の年間計画を実行するまでの打ち合わせや事後の振り返りにより見えてくる幼児の姿や育ちを読み取り、意義ある交流となり、円滑な接続に向けた取り組みができた。しかし、日程調整が課題となることもあった。 ・公開保育と協議の実行に向け、年度当初から計画し他校種へ伝える。 ・降園時に親子での絵本室利用もあり、親子で絵本ノートによる100冊越も6～7割となっている。家庭によりノートの活用は様々だが、絵本への関心は高い。保護者自身も絵本を楽しめる働きかけを工夫したい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・他校種との交流の具体的な年間計画立案 ・公開保育と協議の早い段階での広報 ・親子で絵本の楽しさを共有できる絵本の紹介
学校関係者評価	重点目標の達成状況、次年度の課題 ・ 学校関係者による意見・支援策 ・絵本室の環境整備をボランティアも行っているが、保護者や園児が「元の場所に戻す」意識をしっかりともらっている。みんなで絵本室の環境が整えられていると感じる。3歳児も絵本ボランティアの顔と名前を覚えてきており活動の励みになる。 ・アンケートでは月刊絵本を家庭で活用する割合がやや低いが、その月に親子で楽しめなくても、半年後就学後に絵本が家庭にあることで子どもは何度でも絵本を手に取る。子どもの学びにつながっている。月刊絵本にはそのような効果があることを保護者にも伝えてほしい。

(3) 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む心と体・生活習慣

具体的な取組

○意欲的に体を動かして遊ぶことができ、多様な体の動きが経験できる環境構成の工夫と教師の援助

- ・発達に応じ安心して体を動かして遊べる安全に配慮した環境構成のあり方の立案と計画。
- ・共に遊ぶモデルとなる教師の援助

○「自分でできる」喜びを感じられる発達に応じた生活習慣の確立と家庭との連携

- ・生活習慣が必要と感じる援助と習慣が身につく認めの援助・生活習慣確立に向けた園だよりへの掲載

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・思い切り体を動かした心地よさを感じる幼児の姿のとらえ・事例検討
- ・週案の計画と見直しによる発達に応じた幼児の体や生活習慣の育ちの見とり
- ・アンケート（項目）⑦子どもは遊びや生活の中で体を十分に動かし、体力がついてきている。⑧早寝や早起き・食事やおやつの時間など生活リズムが整ってきている。⑨毎朝、朝ごはんを食べている。⑩子どもは衣類の着脱や持ち物の始末、手洗いやうがいなどの生活習慣が身についてきている。⑪幼稚園では生活習慣が身につくように子どもにかかわっている。⑫家庭では生活習慣が身につくようにかかわっている。⑬園は生活習慣について、園だよりや毎日の連絡などで家庭に知らせ、一緒に考えて取り組もうとしている。

中間評価

各種指標結果

- ・計画的に様々な遊具や用具を用いた環境構成を行い、遊びの中での再構成を繰り返し、幼児の発達に応じた運動と量を確保。
- ・生活習慣が身につくよう個に応じたわかりやすい援助（絵カードや生活の流れがわかる掲示）
- ・今幼稚園が取り組んでいる生活習慣の取組を園だよりで発信した。

アンケート どの項目もA,B評価併せて80~90%前後であるが、⑩⑪ではB評価の割合が30%前後あり、C評価も⑩では12%⑪4%と他項目より若干多い。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・教師が共に遊び中でより楽しく、より意欲的に活動できる環境の再構成を行い、幼児の運動量を一定確保できた。体がしっかり動くことによる心の育ちも丁寧にみとる必要がある。
- ・生活習慣の確立は家庭の悩みでもあり、また、園での課題でもある。家庭と連携を取り合い、時には家庭を支援しながら、取り組んでいく。

分析を踏まえた取組の改善

- ・引き続き十分な運動量の確保と、丁寧な幼児理解 生活習慣確立への丁寧な援助と家庭との連携

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・週案の計画的な立案による活動の工夫と展開 ・満足感や達成感のもたらす心の動きなど幼児理解（研究保育や事例検討）・生活習慣確立への家庭との連携やわかりやすい園だよりでの啓発

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・毎年運動会には幼児の競技や演技に心が動くが、今年度は、さらに体力や集中力がついてきたことを感じた。今までの継続した取り組みが積み重ねられ子どもの姿に表れてきている。
- ・なかよしタイム（預かり保育）でのミニ運動会開催は園行事と連動した活動となった。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">指導計画や週案を見直しながら運動会後も園庭や広場で体操などをする活動を計画的に行ったり、マラソンごっこを前年度より1ヶ月早くから取り組んだりした。サッカーやドッジボールを教師も共に楽しみ戸外で活動する姿がふえた。学年を超えてしっぽとりの遊びを楽しみ運動量が増え多様な体の動きが見られた。アンケート⑦でも、体を動かすことが好きになっているとの評価が高くAB評価でほぼ100%であった。園では生活習慣の定着が見られると捉えているが、アンケート⑪⑫（家庭では身の回りの始末や衣服の着脱など自分の力でしている、家庭でそのようにかかわっている）ではA評価が50～60%と、他項目に比べて低く、前期と大差がなかった。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none">計画的な環境構成が子どもの意欲的な活動を促し、体を動かすことが好きになってきている。事例検討などで「できながらやりたくない」といった傾向も捉えられている。どのように意欲を引き出したり高めたり出来るのか、今後も子どもの気持ちに寄り添いながら個々に応じて援助を考えていきたい。園により生活習慣や健康面の記事を掲載しているが、保護者の子育ての悩みの解決には至っていないと考えられる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">体を動かしたくなるような環境構成を、園庭や玄関ホールなど全学年共有の場を視野に入れ、園全体を捉えて工夫する。生活習慣定着、自立に向けた幼稚園の取り組みの工夫を保護者に伝え、共に考える。
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">広い園庭や広場を活用し、体を動かすことが好きになってきている。また、遊びの多様さや、同年齢や異年齢のかかわりの豊かさが、遊びの多様さに繋がり、意欲や体の動きの多様さにつながった。生活習慣の定着を目指し、工夫していることや、よりよい援助などを家庭と共有し、また、家庭で課題と感じている生活習慣について具体的な援助や方策を家庭と一緒に考える（懇談会や園だよりの活用）
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">「遊びの中に学びがある」として教育活動を行っている公立幼稚園だが、生活習慣がどのように定着していくのか、今一度見直し、ひと工夫を考えたい。また、どういった工夫が生活習慣の自立につながるのかを保護者に伝えることで、保護者の意識も変わってくるのではないか。幼稚園と家庭で課題を共有し取り組んでほしい。

(4) 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none">一人一人の子どもと信頼関係を築き、自己肯定感を育てる援助を行う。安心して過ごせるクラスづくりと友達関係の構築高齢者施設の定期的な訪問学校運営協議会やPTAとの連携・協力による地域行事への参加

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・保育を振り返り、クラス運営を見直す ・一人一人の心に寄り添う幼児理解と事例検討
- ・高齢者施設での交流や地域行事への参加の様子のみとり
- ・アンケート（項目）⑬子どもは喜んで登園し、先生や友達とかかわることを楽しんでいる。⑭園は一人一人の良いところを認め励ましたながらかかわっている。⑮子どもは園で自分の思いを素直に表したり、様々な感情（喜び・悲しみ・怒り・悔しさ等）を体験したりしている。⑯園は子どもの様々な気持ちを受け止め心の育ちを援助している。⑰園の教職員は話しやすい雰囲気をもっている。⑱高齢者施設との交流は子どもの心の育ちにつながっている。⑲園と地域との連携や地域行事への参加により子ども家庭は以前に比べ地域や地域の人に関心や親しみをもつようになってきた。

中間評価

各種指標結果

- ・個々の幼児と教師との信頼関係の構築を保育の振り返りや事例から読み取り、個人への援助、クラス運営への手立てなど、自己肯定感がもてる・高まる保育の改善や充実に努めた。
 - ・高齢者に向ける笑顔や、地域行事への参加による人とのふれあいを喜ぶ姿があった。
- アンケート ⑬A 77%⑭A 84%⑮素直な気持ちを表すA 49%，様々な感情を体験A 75% ⑯A 87%⑰A 91%⑱A 78%⑲A 62%B 33%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・先生が好き、友達が好きという信頼関係の土台はできつつあり、自己肯定感も育ってきている。安心して遊ぶ中で、ルールを守る、相手を思いやる行動も見られる。一方、アンケートから保護者は、園の取組は評価するが、幼児は様々な気持ちを感じながらもまだ素直には表せていない部分があると、とらえていることがうかがえる。思いを言葉だけでなく表情や態度などで表し伝えようとしている姿がある。丁寧に援助を行い、教師や友達との関係をさらに広げていきたい。
- ・高齢者施設との交流では、訪問を楽しみにしたり、ゆっくり握手するなど高齢者への配慮ある行動が見られたりした。また、様々な人と触れ合うことで、自分の住んでいる地域への親しみが芽生えている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・一人一人との信頼関係を引き続き積み上げ、様々な方法で表される幼児の思いを丁寧にみとる保育の中で、高齢者施設のことや、地域行事や出来事の話題にふれる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・丁寧な保育の振り返りと記録 事例検討

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・園の様子から、幼児の友達が好き、先生が好きな気持ちや、安心して園生活を送っていることがわかる。好きな先生がしていること、興味を持っていることが幼児にしっかりと伝わっている。
- ・みつばの森が地域と園をつなぐことで、地域の声が園に届き、園の意向が地域に伝わっている。
- ・地域行事に参加し自分が住んでいる地域への親しみが培われること大切。地域の子どもは地域が育てることの一翼を園も学校運営協議会も担っている。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・日々の保育の振り返りや事例検討などにより、幼児と教師との信頼関係を常に見直し保育に取り組んだ。アンケート⑬(登園楽しみ)では前期に比べ A 評価の割合が高くなっている。アンケート⑭(人とのかかわりを楽しむ)A 評価92%。⑮(思いを素直に表す)A 評価49%→56%，様々な感情を体

験A 75%→82% ⑯園は心の育ちを援助しているA 86%前期とほぼ変わらず⑰園の教職員は話しやすいA 91%→87%⑯高齢者施設交流は心の育ちにつながるA 78%→73%⑯地域に関心や親しみA 62%→55% 学校運営協議会活動は幼稚園が活動を豊かにしている A80%

- ・特養訪問を行っている学年では楽しみにする姿や場に応じたふさわしい態度が身についており、身近な人への関心や信頼が培われている。

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・担任をはじめ、幼稚園教職員、クラスの友達との関係に安心感があり、よりよい信頼関係を築くことができてきている。その中で、様々な人とのかかわりに心動かす姿を捉えることができた。 ・学年により高齢者施設訪問の意義を感じるアンケートの割合に違いがあった。3歳児はまだ訪問交流していない。実際の姿を保護者が知ることも大事かもしれない。・地域への関心はアンケート結果は若干低くなつたが、学校運営協議会の活動への認識や理解は評価が伸びている。 ・教職員への親しみや話しやすさは若干下がっている。流動的な教職員体制となった時期もあり、不安感は理解できる。今後も信頼回復と引き続き信頼関係の構築に努めたい。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、幼児一人一人との信頼関係と安心感を丁寧に築いていく ・地域や学校運営協議会と園のつながり、その意義を保護者に伝える
重点目標の達成状況、次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児や家庭との信頼関係は日々積み重ねるものであり、より良い関係を引き続き維持向上できるよう努める。事例検討などから、まずは担任をはじめとする身近な大人との信頼関係の上に、自己肯定感を丁寧に培っていくことが感じられる。クラスで、園内で、園外や地域で、豊かなかかわりができるようにしていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での活動で子どもたちが顔と名前を覚えてくれた。小学校へ行くと我々は地域の人としてかかわりが続く。そういう意味で親への信頼感、幼稚園の先生への信頼感に続き、地域への信頼感が培われてきている。餅つきなど幼稚園や我々の活動の積み重ねが一つの縁となり、幼稚園を中心に広がりかけていると言える。また、避難場所でもある幼稚園は保護者にとっても子どもにとっても安心の場所であってほしい。 ・子どもの成長や保護者の信頼などみつば幼稚園では素晴らしい教育活動が展開されている。そのことをもっと広く発信し園児獲得につなげてほしい。理事からも地域に発信していきたい。